

C17b ぐんま天文台データアーカイブシステム

衣笠 健三、橋本 修 (ぐんま天文台)

ぐんま天文台では、150cm/65cm 望遠鏡からのデータ取得システムとデータアーカイブシステムの開発を行ってきた。現在は、このシステムの試験運用を行っている。ぐんま天文台には150cm 望遠鏡をはじめとする各種望遠鏡と望遠鏡ごとの各種観測装置があるため、取得される観測データが多様である。また、公開天文台であるため、そのデータは一般市民から研究者までの多様な用途が想定される。このシステムは、これらの各種望遠鏡、観測装置を統一的な手法で取扱い、各観測装置から取得されたデータを各種ステータスデータを含んだ統一的な形 (FITS 形式) で保存すること、さらに、これらのデータを元にしたデータベースアーカイブを行うことを目的としたものである。これらのアーカイブされたデータは、一般市民から研究者まで広く公開することとし、教育普及活動や研究活動に有効に用いられることを目指している。

このシステムの導入により、150cm/65cm 望遠鏡と各種観測装置との統合制御が可能となる。現在のところ、150cm 望遠鏡と高分散分光器 (GAOES) との統合制御を行っている。続いて、赤外カメラとの統合を行い、随時、各種望遠鏡、各種観測装置をこのシステムに組み込んでいくこととなる。データの公開については、一般公開用データと研究用公開データといた2通りの方法を用意する。一般公開データについてはアクセスを重視し、一般のPCで取り扱うことのできる形式 (jpg 形式など) で公開する。一方、研究用データについては、FITS形式で配布するものである。

今回の講演では、これらのシステムを紹介する。つまり、データの取得からアーカイブまでのデータの流れなどを説明する予定である。